

10日 金曜

ヨハネ

3:22 その後、イエスは弟子たちとユダヤの地に行き、彼らとともにそこに滞在して、バプテスマを授けておられた。

3:23 一方ヨハネも、サリムに近いアイノンでバプテスマを授けていた。そこには水が豊かであったからである。人々はやって来て、バプテスマを受けていた。

3:24 ヨハネは、まだ投獄されていなかった。

3:25 ところで、ヨハネの弟子の何人かが、あるユダヤ人ときよめについて論争をした。

3:26 彼らはヨハネのところに来て言った。

「先生。ヨルダンの川向こうで先生と一緒にいて、先生が証しされたあの方が、なんと、バプテスマを授けておられます。そして、皆があの方のほうに行っています。」

3:27 ヨハネは答えた。「人は、天から与えられるのでなければ、何も受けることができません。」

3:28 『私はキリストではありません。むしろ、その方の前に私は遣わされたのです』と私が言ったことは、あなたがた自身が証ししてくれます。

3:29 花嫁を迎えるのは花婿です。そばに立って花婿が語ることに耳を傾けている友人は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。ですから、私もその喜びに満ちあふれています。

3:30 あの方は盛んになり、私は衰えなければなりません。」

3:31 上から来られる方は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地のことを話す。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。

3:32 この方は見たこと、聞いたことを証しさ



れるが、だれもその証しを受け入れない。

3:33 その証しを受け入れた者は、神が真実であると認める印を押したのである。

3:34 神が遣わした方は、神のことばを語られる。神が御霊を限りなくお与えになるからである。

3:35 父は御子を愛しておられ、その手にすべてをお与えになった。

3:36 御子を信じる者は永遠のいのちを持っているが、御子に聞き従わない者はいのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。

バプテスマのヨハネに、イエス様への信仰のあるべき姿勢を見ることができます。自分が何かをやったとは、少しも思っていない。「人は、天から与えられるのでなければ、何も受けることはできません。」とは、まさに真実なことであり忘れてはならないことです。

ですから私たちは「与えてくださる」すばらしい「花婿」を喜ぶのです。花婿なるイエス様を愛しているので、イエス様のためになることが喜びです。イエス様が「盛んになり私は衰えなければなりません。」と、喜びを感じながら言えるでしょうか。それともイエス様のことよりも、自分の喜びが大事でしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

